

新基地建設反対名護共同センターニュース

米議会「活断層と軟弱地盤の検証」を指示



沖繩地元2紙は25日、米連邦議会の下院即応力小委員会が23日、国防権限法案を可決。「辺野古新基地予定地の地震の可能性や軟弱地盤の検証結果を報告するように国防長官に対して指示した」と報じました。琉球新報は、今後の「建設計画に大きな影響を与える可能性もある」と解説しています。

「オール沖縄」のたたかいの成果

これは、県民の不屈のたたかいと多くの地質学者の協力、デニー知事を先頭とした「オール沖縄」の訪米活動の成果です。25日、ゲート前（写真下）はこの報告を受け大いに盛り上がり元気に抗議活動を行いました。

新基地建設計画に影響与える可能性も引き続き現場のたたかいを強めよう！



秋田県民
地上イージス計画停止
涙が出るほどうれしい！
沖縄県民
辺野古新基地強行
涙が出るほどくやしい！
同じ日本国民どこがちがう？

撤回を決めた地上イージスと辺野古新基地の対応の違いを嘆く手づくりのパネルが共感を呼んでいました。

名護民商が最高現勢へあと一步 コロナ対策で確定申告期なみの入会者

名護民主商工会は今、コロナ感染症の影響を受けた会内外の業者からの持続化給付金や融資申し込みの相談の対応で大忙しです。この間、5月以降2カ月弱で例年の確定申告期並みの30人の入会者を迎えています。相談者の8割程度が持続化給付金



の手続きの相談です。税金が未申告だった人は確定申告の相談も受け、給付金手続の援助をしています。名護民商の会員は25日までに654人となり最高現勢の670人までもう一步となりました。

嘉手納基地で火災発生 塩素ガス流出か 米軍基地から相次ぐ有害物質 周辺住民に不安広がる



↑ 防衛局に抗議・要請する共産党の代表。左から新垣千秋北谷町議、瀬長氏、赤嶺氏、島袋氏、田仲康栄嘉手納町議

嘉手納基地内で22日、危険物を取り扱う施設で火災が発生（写真下）、基地内に塩素ガスが流出しました。しかし、米軍は事故直後、基地内では有毒ガス発生時の「警告」と「退避」、「医療対応」をおこなった一方、周辺自治体には連絡すらしませんでした。

沖繩市、嘉手納町、北谷町でつくる「嘉手納基地に関する3市町連絡協議会」は、有害物質による影響を不安視、米軍に立ち入り調査を求め、早期の原因究明、再発防止を要求しています。

共産党が抗議、原因究明を要求

日本共産党の赤嶺政賢県委員長・衆院議員、瀬長美佐雄、島袋恵佑両県議などが23日、嘉手納町の沖繩防衛局を訪れ、火災事故とその後の米軍からの通報の遅れに対して嚴重に抗議するとともに、基地内への立ち入り調査や原因の究明などを要請しました。

普天間では有害なPFOS漏出

宜野湾市の米軍普天間飛行場では4月、格納庫内の消火システムが作動して、有害な有機フッ素化合物のPFOS（ピーホス）を含む泡消火剤が大量に基地外まで漏出したばかりです。